

ナンバリング	B⑤03	科目名	社会的養護 I
担当形態	単独	担当教員	中嶋 一郎
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	なし		
開講時期	後期	単位数・ 授業形態	2 単位・講義
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護の理念と概念を理解し、保育士として実践で使用出来る知識を身につける。 ・児童の権利、児童養護の理念を理解し、保育士として実践で使用出来る知識を身につける。 ・施設養護における自立支援等の具体的な支援について理解し、保育士としての実践力を身につける。 ・社会的養護の抱える今後の課題について理解し、保育士としての考察力、対応力を身につける。 		
授業の概要	<p>この科目は、保育士資格を取得するための必修科目であり、保育実践に不可欠の知識・技能を学習するものである。</p> <p>具体的な内容としては、社会的養護の意義、制度や実施体系及び児童の権利擁護について理解する。また、関係法制度や最新の統計データを参考にしつつ、児童福祉施設の今日的動向と各サービスの特徴を理解する。</p> <p>授業の形式は、講義、演習、ディスカッション等で実施をする。</p>		
授業計画	<p>第 1 回:オリエンテーション／現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷① 社会的養護の理念と概念</p> <p>第 2 回:現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷② 社会的養護の歴史の変遷</p> <p>第 3 回:社会的養護と児童家庭福祉① 児童家庭福祉と社会的養護の関係性</p> <p>第 4 回:社会的養護と児童家庭福祉② 児童の権利擁護と社会的養護</p> <p>第 5 回:社会的養護の制度と実施体系① 社会的養護の制度と法体系</p> <p>第 6 回:社会的養護の制度と実施体系② 社会的養護の仕組みと実施体制</p> <p>第 7 回:社会的養護の制度と実施体系③ 家庭養護と施設養護</p> <p>第 8 回:社会的養護の制度と実施体系④ 社会的養護の専門職</p> <p>第 9 回:施設養護の実際① 施設養護の基本原則 施設養護の実際/養護系施設</p> <p>第 10 回:施設養護の実際② 施設養護の実際/非行系施設・障害系施設</p>		

	<p>第 11 回:施設養護の実際③ 施設養護とソーシャルワーク 施設等の運営管理 記録の作成の留意点と自己評価の視点</p> <p>第 12 回:社会的養護の課題と展望① 生活単位の小規模化とケア体制</p> <p>第 13 回:社会的養護の課題と展望② 社会的養護の担い手のケアの必要性</p> <p>第 14 回:社会的養護の課題と展望③ 社会的養護の課題</p> <p>第 15 回:保育士として社会的養護にどのように関わりたいのかを考える</p>				
準備学習と必要時間	<p>・授業前は事前学習として前回学んだことを 60 分以上かけて復習してください。</p> <p>・授業後は事後学習として学んだ内容に関する社会的な出来事を 60 分以上かけて調べて理解を深めてください。</p> <p>※第 1 回目の事前学習として、「社会的養護の意味と理念」を 60 分以上かけて調べてまとめておいてください。</p>				
評価方法	<p>1. 期末試験 - 55%</p> <p>2. 授業毎の感想レポート - 45%</p>				
参考文献	授業中に適宜示します。				
特記事項	<p>・携帯電話等の使用や私語等を慎むことは、守るべきマナーです。(減点の対象)</p> <p>・授業等で不満があれば個人的に受け付けておりますので、いつでもご相談ください。</p> <p>・自分の意見を持つことは、共に学ぶ学友との相互理解を深めるための道具です。自分の意見はワークシートにまとめ、それを元に他人と議論を交わしてください。(以下、加点の対象)</p> <p>・他の学生を尊重し、その意見をしっかりと受け止めてください。</p> <p>・発表の際には、他の学生に伝わる大きさの声で行ってください。</p> <p>・わからないことがあれば、授業内、外で積極的に質問をしてください。</p> <p>・単位を修得できない場合は社会的養護Ⅱを履修できません。</p>				
課題へのフィードバック方法	<p>試験後、模範解答を提示して解説を行います。</p> <p>授業毎に課す感想レポートについては、特に返却はいたしません。</p> <p>質問等の記載があった場合は、個別対応、または次回の授業にて補足をします。</p>				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格	必修	保育の本質・目的に関する科目
教員の実務経験					